

令和3年度 学校評価報告書

令和4年3月31日

北海道教育委員会教育長 様

北海道室蘭清水丘高等学校長
池 亀 貞 則

次のとおり令和3年度の学校評価について報告します。

1 今年度の重点目標

(1) 礼節を重んじ、豊かな情操を育む
(2) 意欲的な取組を重んじ、主体性を育む
(3) 健全な心身を重んじ、強い忍耐力を育む

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
家庭・地域との連携	(1)継続的なコロナ禍の中、感染対策等を取り入れた行事の新設おこなうなど工夫が見られた。 (2)各教科ICTを活用した学習補償を具体的に勧めた。 (3)HPの活用を活発化させ、積極的な日常の学校を発信させた。	清水丘のICT活用の充実に一定の理解を頂いた。さらに、進学説明や家庭訪問等においてZoomを活用するなど、利用の充実を検討する必要がある。
改善方策	(1)引き続き町内会活動への参加など、地域と連携した取組の充実を図る。 (2)PTA活動について、感染対策を常態化させる事によって、学校行事への参加など、新たな取組を考慮した活動内容の精選に努める。	
学習指導	(1)スタディサポート等を効率的、有効に活用する方法が必要である。 (2)各教科が独自で行う小テストと朝テスト、定期テスト等、生徒の宿題量について調整する必要がある。	(1)コロナ禍の学習補償はまだスタートしたばかりなので、一層の充実が必要である。 (2)ウェブを活用した、個別指導や講習会の検討も必要である。
改善方策	(1)生徒一人ひとりの学習状況や進路志望を的確に把握し、学習意欲を喚起するよう、指導方法の改善に努める。 (2)教員一人ひとりがICT機器の活用スキルを高める。	
生徒指導	(1)いじめの定義について、保護者に理解を得られるよう説明に努める。 (2)頭髮について、社会情勢に合わせた積極的な規則の見直し、指導の意義、改善過程での保護者への丁寧な説明が必要である。	(1)頭髮の規則は自分で考えて作らせる等の指導が必要である。 (2)頭髮指導を学校として検討が必要である。 (3)18歳成人に対する学校での取り組みや対応が必要である。
改善方策	(1)いじめの指導に係る未然防止の取組や発生後の対応について、ホームページや保護者懇談を利用し、家庭や地域に発信する。 (2)18歳成人を機会に頭髮指導について、生徒自らにあり方や規範を考えさせる必要がある。また、指導の意義についての生徒や保護者の理解に努める。	

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
進路指導	(1)保護者、生徒からの評価は概ね良好である。生徒の進路希望に合わせた計画的、系統的な指導することができた。 (2)保護者から、就職・専門学校希望者に対してもう一步踏み込んだ指導や配慮を要望されている。	(1)ウェブを活用した大学説明会や面接について、学校で対応する必要がある。 (2)大学入試のシステムが多岐にわたり、一度の説明では理解できない。保護者への説明方法（繰り返し見られるDVD等）の工夫が必要である。
改善方策	(1)Wi-Fi環境の整備により、学校のネットワーク通信が飛躍的に向上した。このため、一層ウェブを活用した進路活動の充実を図る必要がある。 (2)これまで行っていた保護者向け大学進学説明会や保護者面談会だけでは、十分に理解のできない保護者が一定数いることを念頭におき、その改善に努める。	